

2022年5月13日

各位

会 社 名 株式会社エンバイオ・ホールディングス 代表者名 代 表 取 締 役 社 長 西 村 実 (コード番号:6092) 問合せ先 経 理 部 長 長谷川 忠玄 (TEL.03-5297-7155)

中期経営計画のローリングに関するお知らせ

当社は、2021年6月18日付「新中期経営計画策定のお知らせ」において中期経営計画を公表しておりますが、改めて2023年3月期からの3ヵ年の中期経営計画の定量目標を策定いたしましたのでお知らせいたします。なお、定量目標のみを対象としており、基本方針については変更しておりません。

記

1. 経営理念

環境保全に役立つサービスや製品の提供を通して、環境問題の解決と健やかな環境づくりを 推進し、持続可能な社会の構築に貢献します。

2. 重要課題 (マテリアリティ)

当社は、「地盤環境・エネルギーに関わる問題解決を担う企業集団」を目指し、土壌汚染対策事業、ブラウンフィールド活用事業、自然エネルギー事業を通して、4つの重要課題に取り組みます。

- ■安心・安全な国土利用への貢献
- ■循環型社会の実現への貢献
- ■脱炭素社会の実現への貢献
- ■環境問題解決で国際社会への貢献

3. 中期経営戦略

- ①土壌汚染対策事業の構造改革と収益力の向上
- ②ブラウンフィールド活用事業の大規模化による成長加速
- ③自然エネルギー事業における収益構造の多角化と国際化推進による収益力の向上

4. 数値目標(連結)

	2022年3月期(実績)	2023年3月期(予測)	2025年3月期(計画)
売上高(百万円)	8, 987	8, 481	14, 145
経常利益(百万円)	1, 197	461	761

(注) 本資料は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当 社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があり ます。

以上





株式会社エンバイオ・ホールディングス

中期経営計画 ローリングプラン2022

(2022年3月期~2025年3月期)

当社のビジョンと重要課題



『地盤環境・エネルギーに関わる問題解決を 担う企業集団』として、社会的課題を解決し、持続可能 な社会の実現に貢献します。

重要課題(マテリアリティ)・

安心・安全な国土利用への貢献

循環型社会の実現への貢献

脱炭素社会の実現への貢献

環境問題解決で国際社会への貢献

経営目標



1. 土壌汚染対策事業

- 安心・安全な国土利用、国際社会への貢献
 - ① 経済性の高い土壌汚染対策を推進し、土壌汚染問題を解消
 - ② 建設・インフラ維持管理へ技術を展開し、自然災害の減災に貢献
 - ③ 土壌汚染対策事業の現地化により海外の土壌汚染問題解消を支援

2. ブラウンフィールド活用事業

循環型社会の実現

土壌汚染地の有効活用を推進し、持続可能な土地利用を実現

3. 自然エネルギー事業

- 脱炭素社会の実現、循環型社会の実現、国際社会への貢献
 - ① 太陽光発電やバイオマス発電によるクリーンエネルギーへの転換の推進
 - ② バイオマス発電を活用した地域バイオマスのエネルギーリサイクル
 - ③ 太陽光発電と井戸技術を活用した水資源開発事業で途上国の水不足を解消

中期経営戦略



土壌汚染対策事業の構造改革と収益力の向上

- ① 国内では調査・解析・設計・原位置浄化技術を活用した汚染地有効活用措置の 提案営業で差別化を徹底し、受注の再拡大と収益力向上を目指す
- ② 中国では土壌汚染対策の動きが顕在化してきた日系企業を重点的に営業することで 受注確度を高めて収益化を実現する

ブラウンフィールド活用事業の大規模化による成長加速

- ① 大規模土壌汚染地の売物件情報を定常的に入手するための仕組みを構築する
- ② 土壌汚染対策事業との連携強化を進め環境対応についての提案部分で差別化を図る

自然エネルギー事業における 収益構造の多角化と国際化推進による収益力の向上

- ① 脱炭素社会実現に向けFITに依存しない事業モデルやマネジメントサービスの開発、 土壌汚染対策事業のエンジニアリング能力を活用した事業等を開発し多角化を図る
- ② 海外案件を収集するネットワークの構築を進め、同時に投資実行及び実行後の管理を行う体制を整備する

2021年度実績①



土壌汚染対策事業の構造改革と収益力の向上

- ① 国内では調査・解析・設計・原位置浄化技術を活用した汚染地有効活用措置の 提案営業で差別化を徹底し、受注の再拡大と収益力向上を目指す
- ⇒売上に占める、原位置浄化等の技術力を活かした提案営業に注力した結果、差別化案件の割合が30%程度となり、収益性が改善、売上は計画通りも、利益が想定の2.2倍増
- ② 中国では土壌汚染対策の動きが顕在化してきた日系企業を重点的に営業することで受注確度を高めて収益化を実現する
- ⇒日系企業から閉鎖工場の調査~浄化案件の受注に成功。実績を基に営業強化

ブラウンフィールド活用事業の大規模化による成長加速

- ① 大規模土壌汚染地の売物件情報を定常的に入手するための仕組みを構築する
- ② 土壌汚染対策事業との連携強化を進め環境対応についての提案部分で差別化を図る
- ⇒大型物件の売却及び再生費用の圧縮により、売上/利益ともに大幅増加。他方、 来期以降の大型物件の仕入は計画未達成のため、販売計画の見直しが必要

2021年度実績②



自然エネルギー事業における 収益構造の多角化と国際化推進による収益力の向上

- ① 脱炭素社会実現に向けFITに依存しない事業モデルやマネジメントサービスの開発、 土壌汚染対策事業のエンジニアリング能力を活用した事業等を開発し多角化を図る
- ② 海外案件を収集するネットワークの構築を進め、同時に投資実行及び実行後の管理を行う体制を整備する
- ⇒既設物件が想定を上回る稼働。新規案件の獲得は、競争過熱により 案件の精査をより慎重に行うとともに脱FIT事業モデルの推進を加速

2021年度実績を踏まえた業績目標変更



中期経営計画 方針

・前半に構造改革と将来の収益に備えた先行的な支出を実行し、収益力の向上を図り、2025年3月期を目標に営業利益の倍増を目指す

前期結果

- ・売上はほぼ計画通りも、利益率の大幅改善により<u>2025年3月期の目標利益を2022年3月期</u> で達成!!
- ・他方、ブラウンフィールド活用事業の不動産仕入が計画未達のため、来期以降の仕入方法、<u>売上</u> 予算の見直しが必要
- ・また、土壌汚染対策事業や自然エネルギー事業については、新しい成長モデル構築のために新規事業/技術への投資を積極的に実施する方針

中期経営計画数字の見直し

・経営目標、中期経営戦略に変更は無いものの、今後<u>3カ年の業績目標を見直し</u>ました。また、新たに安定的な配当を行う目標も定めました。

中期業績目標(修正)



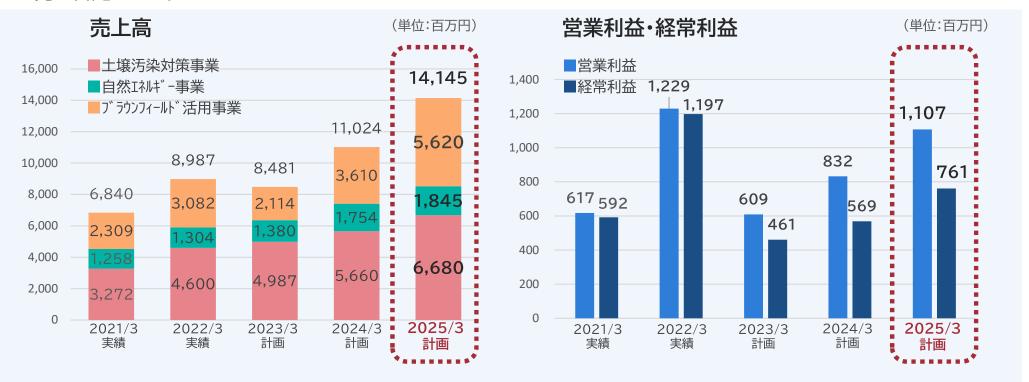
■ 2023年3月期

ブラウンフィールド活用事業(以下BF)の大型物件売却が無いため計画比売上減。

土壌汚染対策事業は、2022年3月期に計画を大幅に超える改善を達成したものの、仕入価格の急激な上昇による不確実性を鑑みて原価率を当初計画値で設定。 結果として、当初計画比減収も利益はほぼ当初計画通りを予定。

■ 2024年3月期、2025年3月期

土壌汚染対策事業、自然エネルギー事業は計画に変更無し。BFについては、今期の仕入状況が予算達成の鍵。 大型物件売却について、2025年3月期の一部について、既に再生中の案件の売却を予定しているため50%程度 の売上目処はあり。



株主還元(配当)について



配

従来、内部留保の充実を図り事業拡大のための投資を行うことを優先してまいりました。他方、事業拡大を図る方針に対して、中長期的視点で株主様の理解 をいただくために、継続的な利益還元も必要との認識をしておりました。

前期、<u>上場来最高の連結売上高・利益(営業利益・経常利益・親会社株主に帰属</u> する当期純利益)を計上し、配当を開始することといたしました。

本中期経営計画においても、配当を継続し安定的に増加させていくことを追加の目標とします。具体的には、ストックビジネスである自然エネルギー事業の既設設備から得られる収益の約30%を当面の配当原資とすることで配当を安定的な増加の実現を目指します。



ご留意点

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

本資料における業績予想および将来の展望に対する予想等に関する記述は、現時点で利用可能な情報に基づき判断した予想であり、経済情勢等の変動など様々な要因により予想等が実際の業績と 異なる可能性がありますことをご了承ください。

お問い合わせ先

株式会社エンバイオ・ホールディングス 管理本部 長谷川

TEL : 03-5297-7155 FAX : 03-5297-0581

E-mail: info@enbio-holdings.com Website: https://enbio-holdings.com/